

1 倉庫業の現況

(1) 事業者数及び所管面（容）積

(ア) 事業者数

管内の営業倉庫事業者数は第1表のとおりで、442社（前年度末比1.06%増）である。

第1表 倉庫事業者数（令和元年度末）

普通倉庫

冷蔵倉庫

| 区分 | 主たる営業所 | | 計 | 区分 | 主たる営業所 | | 計 |
|-----|--------|------|-----|-----|--------|------|----|
| | 管内 | 他局管内 | | | 管内 | 他局管内 | |
| 発券 | 28 | 30 | 58 | 発券 | 11 | 10 | 21 |
| 非発券 | 243 | 99 | 342 | 非発券 | 36 | 18 | 54 |
| 計 | 271 | 129 | 400 | 計 | 47 | 28 | 75 |

※1 普通倉庫（主たる営業所が管内）の非発券事業者243社のうち3社は、管内に倉庫を有しない。

※2 普通倉庫と冷蔵倉庫の兼業は33社である。

(イ) 所管面（容）積

倉庫事業者が管内に保有する倉庫の所管面（容）積の推移は、第2表のとおりである。管内における倉庫は神戸市及びその周辺都市に集中しており、中でも神戸市内には、所管面（容）積ベースで、普通倉庫では一～三類倉庫の55.0%、危険品倉庫（タンク）の72.6%、野積倉庫の71.3%、貯蔵槽倉庫の90.8%、冷蔵倉庫の63.8%が立地している。

第2表 倉庫所管面（容）積の推移

（各年度末現在）

| 区分 | 種類別 | 年度 | | | | | 対前年度比 （%） | |
|---------|-----------|-----------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------------|-------|
| | | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | |
| 管内 | 普通倉庫 | 一類倉庫（㎡） | 3,029,423 | 3,086,862 | 3,171,669 | 3,320,153 | 3,600,823 | 108.5 |
| | | うち 認定タンクルーム （㎡） | 76,004 | 78,258 | 77,768 | 77,996 | 81,039 | 103.9 |
| | | 二類倉庫（㎡） | 3,166 | 3,166 | 3,166 | 3,166 | 3,166 | 100.0 |
| | | 三類倉庫（㎡） | 66,336 | 66,331 | 55,403 | 60,212 | 64,547 | 107.2 |
| | | 小計（㎡） | 3,098,925 | 3,156,359 | 3,230,238 | 3,383,531 | 3,668,536 | 108.4 |
| | | 危険品 倉庫 | 147,636 | 147,556 | 203,912 | 203,912 | 203,912 | 100.0 |
| | | タンク（㎡） | 56,241 | 56,979 | 52,874 | 55,844 | 59,115 | 105.9 |
| | | その他（㎡） | 428,109 | 430,071 | 473,850 | 493,268 | 488,715 | 99.1 |
| | | 野積倉庫（㎡） | 935,954 | 892,894 | 769,645 | 769,645 | 769,645 | 100.0 |
| | | 貯蔵槽倉庫（㎡） | 2,405,910 | 2,405,264 | 2,325,627 | 2,391,031 | 2,676,325 | 111.9 |
| 冷蔵倉庫（㎡） | 1,718,196 | 1,766,506 | 1,811,349 | 1,868,281 | 2,017,893 | 108.0 | | |
| 神戸市内 | 普通倉庫 | 一類倉庫（㎡） | 1,718,196 | 1,766,506 | 1,811,349 | 1,868,281 | 2,017,893 | 108.0 |
| | | うち 認定タンクルーム （㎡） | 61,587 | 61,587 | 59,727 | 58,754 | 58,012 | 98.7 |
| | | 二類倉庫（㎡） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0 |
| | | 三類倉庫（㎡） | 277 | 272 | 272 | 272 | 0 | 0.0 |
| | | 小計（㎡） | 1,718,473 | 1,766,778 | 1,811,621 | 1,868,553 | 2,017,893 | 108.0 |
| | | 危険品 倉庫 | 147,636 | 147,556 | 148,050 | 148,050 | 148,050 | 100.0 |
| | | タンク（㎡） | 16,892 | 17,667 | 18,010 | 20,127 | 22,082 | 109.7 |
| | | その他（㎡） | 339,277 | 342,235 | 355,568 | 355,610 | 348,595 | 98.0 |
| | | 野積倉庫（㎡） | 865,403 | 822,343 | 699,094 | 699,094 | 699,094 | 100.0 |
| | | 貯蔵槽倉庫（㎡） | 1,620,880 | 1,631,615 | 1,574,300 | 1,662,716 | 1,706,629 | 102.6 |
| 冷蔵倉庫（㎡） | | | | | | | | |

*神戸運輸監視部管内において、水面倉庫の実績はない。

(2) 倉庫需要

管内普通倉庫及び冷蔵倉庫の受寄物入庫量、平均月末在庫量は、第3表及び第4表のとおりで、管内一～三類倉庫及び冷蔵倉庫の入庫量、平均月末在庫量の推移は、第1図のとおりである。

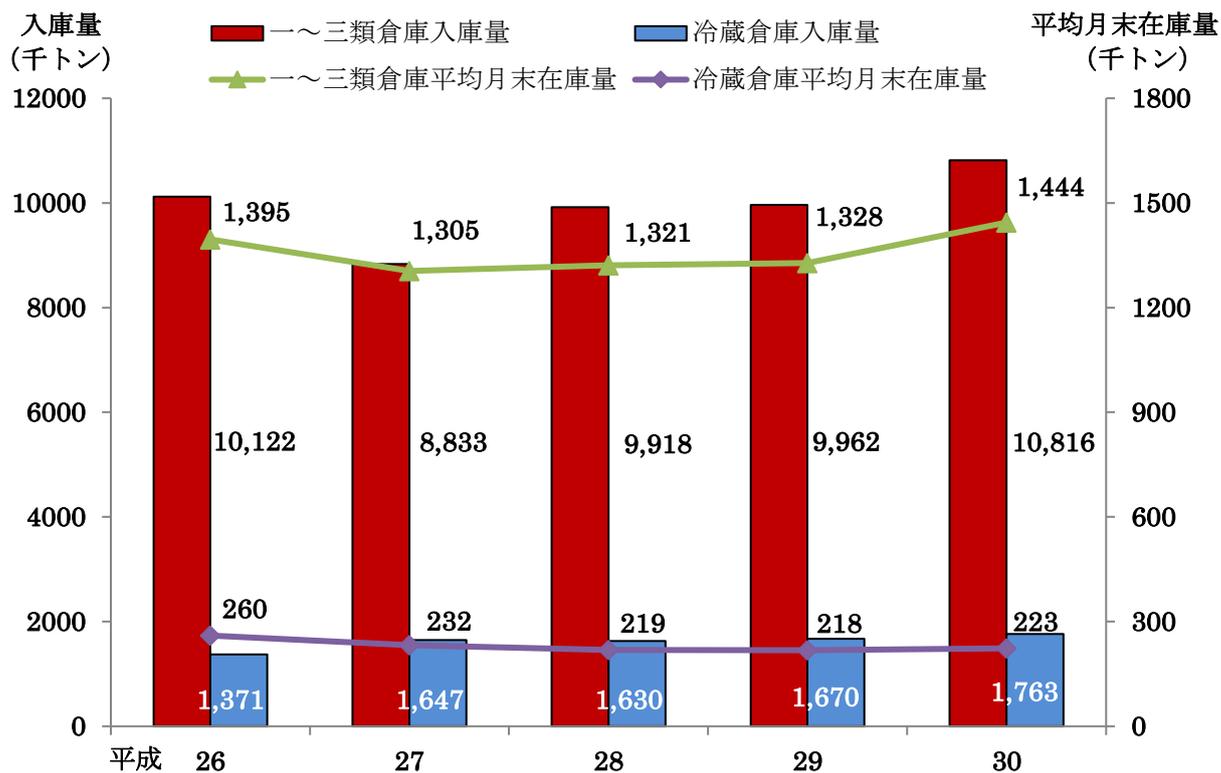
第3表 管内普通倉庫の受寄物入庫量、平均月末在庫量（平成30年度）

| 種類別 品目 | 一～三類倉庫 | | 危険品倉庫 | | 野積倉庫 | | 貯蔵槽倉庫 | | 普通倉庫計 | |
|-----------|--------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|----------------------|
| | 入庫量 (千トン) | 平均月末 在庫量 (千トン) |
| 農水産品 | 645 | 231 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,289 | 223 | 1,934 | 454 |
| 金属 | 743 | 100 | 0 | 0 | 978 | 69 | 0 | 0 | 1,721 | 169 |
| 金属製品・機械 | 1,622 | 134 | 19 | 1 | 530 | 12 | 0 | 0 | 2,171 | 147 |
| 窯業品 | 103 | 28 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 104 | 28 |
| 化学工業品 | 1,923 | 270 | 916 | 104 | 1 | 0 | 17 | 2 | 2,857 | 376 |
| 紙・パルプ | 722 | 57 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 722 | 57 |
| 繊維工業品 | 172 | 28 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 172 | 28 |
| 食料工業品 | 2,718 | 294 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2,719 | 294 |
| 雑工業品 | 1,214 | 172 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 1,219 | 172 |
| 雑品 | 954 | 130 | 4 | 1 | 31 | 10 | 11 | 2 | 1,000 | 143 |
| 平成30年度計 | 10,816 | 1,444 | 940 | 106 | 1,546 | 91 | 1,317 | 227 | 14,619 | 1,868 |
| 対前年度比(%) | 108.6 | 108.7 | 145.7 | 147.2 | 101.1 | 115.2 | 71.2 | 81.9 | 104.5 | 106.4 |
| 平成29年度計 | 9,962 | 1,328 | 645 | 72 | 1,529 | 79 | 1,850 | 277 | 13,986 | 1,755 |

第4表 管内冷蔵倉庫の受寄物入庫量、平均月末在庫量（平成30年度）

| 品目 | 項目 | 入庫量 | 平均月末在庫量 |
|----------|----|-------|---------|
| | | (千トン) | (千トン) |
| 生鮮水産物 | | 0 | 0 |
| 冷凍水産物 | | 148 | 36 |
| 塩干水産物 | | 31 | 9 |
| 水産加工品 | | 38 | 7 |
| 畜産物 | | 149 | 25 |
| 畜産加工品 | | 188 | 32 |
| 農産物 | | 232 | 41 |
| 農産加工品 | | 42 | 9 |
| 冷凍食品 | | 786 | 49 |
| その他 | | 149 | 15 |
| 平成30年度計 | | 1,763 | 223 |
| 対前年度比(%) | | 105.6 | 102.3 |
| 平成29年度計 | | 1,670 | 218 |

第1図 管内一～三類倉庫及び冷蔵倉庫の入庫量、平均月末在庫量の推移



(3) 倉庫管理主任者スキルアップセミナー

倉庫管理主任者制度の一層の充実と倉庫管理主任者の更なる資質の向上を図ることを目的として、倉庫管理主任者を対象とした「倉庫管理主任者スキルアップセミナー」を開催している。令和元年度は労働災害防止やBCP策定等をテーマに、7月26日に開催した。

2 物流の効率化

(1) 物流総合効率化計画の認定

「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律」（物流効率化法）は、流通業務（輸送、保管、荷さばき及び流通加工）を一体的に実施するとともに、「輸送網の集約」、「モーダルシフト」、「輸配送の共同化」等の輸送の合理化により、流通業務の効率化を図る事業に対する計画の認定や支援措置等を定めた法律である。

昨今の物流分野における労働力不足や、荷主や消費者ニーズの高度化・多様化に対応するため、平成28年10月に同法が改正され、法目的に「流通業務に必要な労働力の確保に支障が生じつつあること」への対応を図る旨が追加されるとともに、二以上の者が事業を連携して行うことを前提に多用な取り組みへと対象を拡大した。

令和元年度は、改正法に基づき、3件（全国76件）の認定を行った。

(2) モーダルシフト等推進事業

温室効果ガスの排出削減、流通業務の省力化による持続可能な物流体系の構築を図るため、荷主企業及び物流事業者等物流に係る関係者によって構成される協議会が物流総合効率化法に基づき実施するモーダルシフト等の取り組みを支援している。

(3) グリーン物流等に係る普及・啓発

関西グリーン物流パートナーシップ会議（事務局：神戸運輸監理部、近畿運輸局、近畿経済産業局）の取り組みとして、物流の分野における環境負荷軽減に向けた取り組みを推進し、広く啓発することを目的とした「グリーン物流セミナー（鉄道版）」を令和元年9月11日に開催した。

なお、令和2年3月12日に開催が予定されていた「グリーン物流セミナー（海上版）」は、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となった。

(4) 物流分野におけるエネルギー使用の合理化

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」により、特定輸送事業者指定された一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者には、毎年省エネ措置の中長期計画及びエネルギー使用量等の定期報告書を提出することが義務づけられ、管内で指定を受けた特定輸送事業者（内航海運事業者2社）から、これらの中長期計画及び定期報告の提出を受けている。

(5) 物流に係る交通環境教育プログラム

物流分野における環境問題の解決に向け、若い人材に関心を持ってもらうことを目的として、神戸大学大学院海事科学研究科と連携し、物流の効率化や環境負荷低減を図る方策などについて考える「交通環境教育プログラム」を、平成24年度より実施している。

令和元年度は、令和2年1月17日に神戸大学の学生の参加を得て開催し、物流効率化法の認定を受けた（株）上組の神戸空港島第2ロジスティックセンターを見学するとともに、物流に関する課題や問題点について説明を受けた。

また、ワークショップでは学生を2グループに分け、『物流効率化と環境負荷低減を倉庫データから考える！』というテーマについて議論を行い、改善策等を検討した。

(6) 交通環境教室

次世代を担う子供たちに、公共交通が環境にやさしい乗り物であることを理解してもらい、自発的に環境にやさしい行動を取れる人材を育て、さらには公共交通の利用促進を目的として「交通環境教室」を実施している。

令和元年度は、管内の小・中学校における、「バリアフリー教室」開催時に「環境要素」を盛り込む形で実施した他、公共交通の利用促進イベントにブース出展するなど、合計6回実施した。

3 災害に強い物流システムの構築

東日本大震災において明らかとなった災害時における支援物資物流の課題等を踏まえ、大規模災害の発生が予想される地域において、民間の施設やノウハウを活用した災害ロジスティクスシステムを構築するため、平成23年度に近畿ブロックにおいて「災害に強い物流システムの構築に向けた協議会」が設置され、東南海・南海地震の被害が想定される地域（兵庫県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県）における国・地方自治体と民間事業者の連携方策、物資拠点として民間の物流施設の活用、オペレーションにおける民間のノウハウの活用等について検討を行っている。令和元年度も引き続き、官民の連携や協力体制の構築、協力協定の締結・充実の推進といった今後のあり方について検討し、関西における各省庁、各自治体、各団体の災害支援物資体制構築に向けた協議を行った。（協議会：令和2年1月20日）

令和元年度末現在、兵庫県内の民間物資拠点として、倉庫事業者施設29カ所（20事業者）、トラック事業者施設7カ所（3事業者）の計36カ所（22事業者（うち1事業者は倉庫・トラック兼業））がリストアップされている。